赦帳寫

813
2

ガラス使用

35.11.21

ガラス使用

サ175

八之百十八 第七棚

赦帳寫

一

813
48
2

ガラス使用

御赦願帳

二冊之内

舊幕引繼書

遠嶋

小田切土佐守預り

元駿府国元[illegible]代

大原亀五郎

一

右之者儀御年貢入金不納其外手代共不正之廉

有之儀不存ニ而茂不行届段不届ニ付寛政元酉年十二月

廿六日久世丹後守殿掛ニ而遠嶋被　仰付八丈嶋江遣ス

一　新材木町
元名主
吉右衛門

小田切土佐守懸り

右之者儀遊女揚代滞ニ付浅草旅籠町代地ニ罷在候
政助と申者ニ金子口入相頼不埒之筋ニ候段調達之件
寛政四子年八月中小田切土佐守殿掛ニ而吟味之上
右始末不届ニ付同年十二月廿九日遠島被
仰付八丈島江被遣候

一　人形町長兵衛店喜兵衛
佐七店ニ元罷在候
度八

右之者儀寛政二戌年十二月松平右京亮殿ゟ
被召捕吟味之上博奕宿致候段不届ニ付子年
三月廿二日遠島被　仰付三宅島江被遣候

一　四谷坂町ニ元罷在候
吉兵衛

池田筑後守掛

右之者儀安永五申年中
公儀御道具紛失之節鉄炮与[illegible]折摘
右品紛失之節船ニ有早速当人ニ引渡候一件
牧野大隅守殿掛ニ而吟味之上翌酉年十二月中遠嶋
之
伊豆新嶋江被遣候

元御代官
大草太郎左衛門

一
（小田切土佐守掛り）

右之者儀御役中支配下村々ゟ取立候上納金之儀者
久保田佐渡守殿掛ニ而吟味之上右之金子引負候段
天明[illegible]年寛政二戌年二月十八日於評定所遠島申渡
伊豆八丈嶋江被遣候

御旗奉行
水谷信濃守支配
中條利左衛門悴
中條政次郎

一
（小田切土佐守掛り）

ガラス使用

右之者儀寛政三亥年六月十二日白山前ニ而
西浄光清嚢法門前頭大前孫兵衛組小倉屋半所与
酒給合口論及候途中中間酒之者与及口論候一件
初鹿野河内守殿掛りニ而吟味之上口論以後落着有之候
人命指戻揉帰候儀者不届ニ付同年十二月十二日遠島
三　宅島

松平豊前守殿領分
下総国香取郡南中村
元百姓
俊之清

一
右之者儀寛政三亥年凶作ニ而年貢米不納之儀ニ付
地頭松平豊前守殿屋敷迄願筋有之致強訴之一件
松平伊豆守殿御下知ニ相成曲淵甲斐守殿掛りニ而
吟味之上寛政四子年三月廿二日遠島

伺之通三宅嶋江申遣ス

一　池田筑後守掛　美濃国元御代官　千種孫十郎

右之者儀父六郎左衛門代取立候御年貢米金
引負候銀錢之儀上納ニ相成候儀孫十郎ゟ願候ニ付
伺之節為御褒之趣依而上ニ而差支ニ付右者儀入牢
之姿を以去卯二月死去後久世丹後守殿掛ニ而吟味之上
右始末不届ニ付寛政元酉年六月廿七日遠島
伺之八丈嶋江申遣ス

一　松平右京亮掛　小普請今村安藝守　兄之伜　諸松

右之者儀寛政三亥年三月檀家葬式之儀ニ付
不調法之儀有之松平右京亮殿掛ニ而吟味之上
同年六月中遠島伺之
伺之通三宅嶋江申遣ス

ガラス使用

一　池田筑後守掛　元清水小納戸
寄合
福澤助市

右之者儀天明四辰年松田勝十郎宅ニ而新鋪ニ而
人寄セ有之候ニ付罷越致帰宅候ニ其後勝十郎ニ
而吟味之上ニ而助市儀同様ニ而吟味有之候中欠落
致去ル三月遠慮被　仰付置候山田肥後守支配山村
信濃守殿江引渡八丈島江致遣候

一　池田筑後守掛　元御代官
宮村孫左衛門　死

右之者儀野州ニ而掛代金不納一件根岸肥前守
掛リニ而吟味之上天明八申年中遠慮被
仰付置候処去戌以前致病死候

一　武州埼玉郡加須村
元百姓
七郎兵衛

ガラス使用

右之者儀寛政元酉年六月中ニ笠附点之商賣致し候段風聞有之ニ付伊奈右近将監根岸肥前守掛りニ而吟味之上翌戌年十一月廿八日遠嶋申付
伊豆新嶋江遣ス

一
日本橋平松町
庄兵衛店ニ元家主
宗兵衛

右之者儀博奕一件ニ付寛政二戌年五月廿日長谷川平蔵掛りニ而吟味之上同年八月廿七日遠嶋申付
伊豆新嶋江遣ス

一
小田切土佐守殿
下谷[illegible]下谷町[illegible]店ニ元家主
家持彦之助親
幸右衛　死

右之者儀博奕宿一件ニ付初鹿野河内守掛りニ而吟味之上寛政元酉年七月廿七日遠嶋申付

御免之上出帆次第被召返候

元御代官
亀田清蔵元〆手代
加藤三次

一
右之者儀亀田清蔵在役中元〆手代相勤罷在候
清蔵儀御年貢引負候一件ニ付久世丹後守掛ニ而
吟味之上元〆手代相勤候者ニ付引負不埒ニ付
候段不届ニ付天明八申年十月六日遠島被申付

御免八丈島ゟ被召返候

萩原弥五兵衛御代官所
武州足立郡辻村
元百姓
孝七

一
右之者儀博奕一件ニ付曲渕甲斐守掛ニ而吟味
之上寛政元酉年八月中遠島被申付　御免新島ゟ被
召返候

霊岸嶋本湊町武右衛門
年寄嘉兵衛店良松方ニ元罷在候
きよ

一　当卯十九歳

右之者儀妹聟新之助おまさ致放火之一件後日
豊前守殿掛リニ而吟味之上宝暦十三未年二月中
遠島被　仰付八丈島へ被遣候

一　池田筑後守掛

御免之
松平伊賀守殿ニ而組申渡
井部定左衛門

一右之者儀先年御代官中井清太夫手代相勤
罷在候内不埒之儀有之且右一件豊前守殿
用立金令取持其後御免之節明田長左衛門
尚代取扱訴訟式議諸親類書取扱頭ト在候
儀共池田筑後守殿掛リニ而吟味之上右始末不届
ニ付安永三午年八月十二日遠島被　仰
付八丈島へ被遣候

ガラス使用

西国筋代官
揖斐造酒助手附
元支配勘定格江戸詰元〆
瀧口亦右

一　右之者儀江戸詰元〆役相勤候節手付支配當御米判以代官附之儀造酒助方ニ而遣得与掛合取極之上下ケ之處其儀迄書及定〆迄江戸詰之者右評議之上再應ニ而勘定可申書上ケ以来久世丹後守殿掛ニ而吟味之上右取斗方不届ニ付當巳年五月廿二日遠慮被　仰付

一　（池田筑後守掛）
元寄合医師
細川宗仙

右之者儀浪人者ニ而長崎ニ而茶無一件ニ付吟味之上安永五申年七月九日小野日向守殿牧野大隅守殿御月番之殿以書付を以御役被召放浪人者長崎ニ而茶無ニ候不届ニ付遠慮被

ガラス使用

伊豆八丈島江遠島

一　池田筑後守掛　　南品川佐七店ニ元所化

十太郎

右之者儀宝暦十辰年木挽町ニ而家主源兵衛与

口論一件依田豊前守殿掛りニ而吟味之上江戸払

之処

伊豆大島江被遣天明二寅年二月中芝片門前

町十右衛門店巳之助儀鍋之好男を取隠置候ニ付

牧野大隅守殿御役中ニ而捕吟味之上揚屋ニ

入置候処同年十二月中遠島被仰付

伊豆八丈島江遠島

一　板倉周防守掛　　浅草新寺町元全剛院

真隆

右之者儀寛政四子年八月板倉周防守殿掛りニ而

吟味之上　御紋附長持箪笥之夜抜其外

国立国会図書館　タイトル『赦帳写』 請求記号 813-2　ガラス使用

申訳難相立儀有之同年九月廿八日遠島被
仰付三宅島江被遣候

元大貫次右衛門御代官所
総州大里郡高山三之町村
甚兵衛

一
右之者儀安永二巳年中地面改之儀被
仰付候処心得違之儀有之石谷備後守殿川井
越前守殿御掛りニ而吟味之上安永三午年十二月中
遠島被
仰付新島江被遣候

深川富吉町
元名主
権之丞

池田筑後守掛

一
右之者儀支配家持彦兵衛与申者店下人別ニ入置候者
不埒之段取計申訳難相立儀有之天明四辰年中
致欠落右相掛候処左衛門代次郎治郎与申者宿
致置候ニ付牧野大隅守殿御掛ニ而吟味之上

ガラス使用

天明七未年十二月廿四日山村信濃守殿掛ニ而
遠嶋ニ被　仰付新嶋江遣ス

一　小出大和守支配所
　　武州埼玉郡越ヶ谷宿
　　徳之清店新助倅
　　　　新五郎

一　日本橋石町之店八治郎方
　　　　權之情

右之者去ル安永五申年十一月中当宿文治郎与
申者与去ル夜喧嘩之上怪我為致候処文治郎儀
日を経而相果候ニ付大田播磨守殿掛ニ而吟味之上
安永六酉年十月廿二日遠嶋ニ被　仰付新五郎儀者
新嶋ニ權之情儀者八丈嶋江遣ス

一　沼田荒清之掾
　　芝田町四丁目元家主
　　　　喜助

右之者儀寛政二戌年二月中博奕之儀ニ而池田

筑後守支掛りニ而 吟味之上同年九月十八日遠嶋ニ

依之三宅嶋ニ遣ス

一　（池田筑後守掛）

伊大守当之訳
根津左衛門大夫組元下者
小高庄助

右之者儀安永六酉年中侍ニ不似合人合口疵為負

牧野大隅守支掛りニ而 吟味之上同年十月廿日遠嶋ニ

依之八丈嶋ニ遣ス

一

下札
此頭部屋借地ニ[illegible]元年[illegible]
相者訳不存候
山田[illegible]

下札

松平式部大輔殿領分
越後国蒲原郡五泉村
元百姓
治郎左衛

右之者儀同領分郡村之者共拾弐人申合願之上

不容易儀願之及及右ニ付一同國所ニ付[illegible]

右治郎左衛門儀頭取人願之役人取計右申立中之

次第新在件初策野河内守支掛りニ而 吟味之上

寛政二戌年八月廿七日於評定所遠江守殿
伺済之上被申渡之

追拂

一　（相州大住郡大山寺領元瀧坊召抱置候者）内海主膳

一　（脇坂淡路守抱）下山織江

一　内海式部
右之者去戌弐拾壱年以前明和七寅年中国許
下河之河分之百姓共地頭八大坊江不埒之儀致候
一件ニ付美濃守殿勤役中其共ニ而追之所来
之上翌卯年二月廿二日召返候又来勤不慎不届候
不届ニ付重追放申付　伺済之

ガラス使用

寛政二戌年八月廿五日於評定所赦免被
仰付八丈島ゟ被遣候

追払

一 （相州大住郡大山寺領　元師職并名主役兼帯）内海主膳

一 （脇坂淡路守掛）下山織江

一 内海弐記
右之者去戌弐拾ヶ年以前明和七寅年中国許
下野之内分之百姓共地頭八大坊ゟ不埒之儀致候
一件右役美濃守殿勤役中差出候処追々吟味
之上翌卯年二月廿二日名主役取上勤方不埒之段
不届ニ付重追放被　仰付候

一　池田筑後守掛

横田三右衛門元家来
福井太右衛門

右之者儀天明七未年中十七歳孫八郎ニ頼候
有之書物致受用候山村信濃守殿掛りニ而
吟味之上同年十二月五日重追放被
仰付候

一　池田筑後守掛

小十人組
榊原新三郎支配
元小十人
宮村孫八郎

右之者儀父孫左衛門野馬方掛代官不納之儀有
天明八申年中根岸肥前守殿掛りニ而吟味之上
孫左衛門儀遠島被　仰付候父之科孫八郎儀
重追放被　仰付候

一　池田筑後守掛

元御代官
中井清大夫元手代
古川平五郎

右之者儀手代相勤節御本年貢銀取込致欠落

国立国会図書館　タイトル『赦帳写』 請求記号 813-2　ガラス使用

主人入用金之儀借用仕積今以主封調候上右
借用證文ニ加印之儀相頼候処下男不承知ニ付遣
致し主人ニも不申聞金子請取候段不届ニ付敲
処ニ至同役共ゟ之儀吟味中者ニ而
右借用金不相済候而者後難如何与存居候
金子為返済金證文取戻し候旨申来候処
遂ニ申合主人之者も不障申出候

最初ゟ吟味中之者主人江預越中守殿差拒
候條旁不届ニ付寛政三亥年八月十六日重追放
ニ付
伺有之候趣評定所池田筑後守申渡候

元御代官
大草太郎左衛門手附
一　大草門右衛
當初大作ゟ成り
一　大草亀尾
一　大草辰三郎

ガラス使用

右三人之者儀父右衛門左兵衛変死不埒之致方ニ
上納金引負之有之久保田佐渡守殿掛りニ而吟味
之上右衛門左兵衛儀遠島 仰付右三人之者共儀
依父之科寛政二戌年二月廿二日於評定所中追放
ニ 仰付候

稲葉播磨守殿領分
房州長狭郡和泉村
元百姓

一　　　　富三

一　　　　同　捨七

右之者儀村方之猪鹿多分出田畑を荒し
難儀ニ付威し鉄炮不持候存寄之新規之
事故届不容易儀与存隠し鉄炮所持致し
不届之儀ニ付曲渕甲斐守殿掛りニ而吟味之上右始末
不届ニ付寛政二戌年二月二日中追放ニ 仰付候

一　池田筑後守掛　　　笠原五左衛門組同心
　　　　　　　　　　　青山伝右衛門悴
　　　　　　　　　　　　青山孝次郎
右之者儀寛政四子年三月廿七日旅宿ニ而酒狂
之上衣類大小捨置ニ而罷越途中ニ而旅人出会候
一件池田筑後守殿掛りニ而吟味之上右孝次郎儀
酒ニ給酔衣類大小捨置罷帰候途中大工与兵衛江
手疵為負候とも不覚之趣候得共御家人之悴之身分
ニ而不届ニ付同年八月十六日中追放被仰付候

一　池田筑後守掛　　荒田町元名主
　　　　　　　　　　　徳三郎
右之者儀身上不如意ニ而借財多取続兼候ニ付
支配町内之者共ゟ出金之世話致候一件池田
筑後守殿掛りニ而吟味之上右始末不届ニ付寛政二戌年
九月十八日中追放被仰付候

元御中宮
大番土屋大和守元与力
一　内藤与兵衛
（伊勢守殿御預ケ被為　能登守殿　小笠原佐渡守）
右之者儀大番組与力相勤候中支配西村与兵衛
上總介江対し御科江　作事方之者
与力共相勤及右之始末不届ニ付遠流被仰付
作事方之者宝永二酉年二月十日於淡路国三原郡
被仰付置候

本庄安芸守在所日向住
清泉寺元住持
一　寂邦
寺山下野守様
右之者儀同所大宮領本寺廣田大寺与争論ニ
付先年廣田大寺儀本寺清泉寺を相離真言宗
西大寺末ニ成候処本寺清泉寺新規之儀致候
子年中久世出雲守殿勤役中能登守殿江出
訴出候度掛り之一件及吟味候上押而相願候

不届ニ付安永三午年八月廿七日中追放被　仰付

一
（元御代官
千種清十郎御預所元〆手代）
中村左一兵衛
右之者儀元〆之節、御勘定[illegible]清十郎年貢
引負一件　天明八申年十二月中久世丹後守殿掛り
ニ而吟味之上　寛政元酉年　六月廿七日中追放被
仰付

一
（稲垣右衛門支配所
相州高座郡長後村）
元百姓
一右衛門
右之者儀村方百姓共之儀ニ付地頭所江門訴
願之一件　明和八卯年十二月中松平對馬守殿懸ニ而
御吟味之上一件之頭取致候ニ付遠嶋被
仰付未出牢中壬辰年二月廿九日牢屋類焼之
節立退罷出致帰候ニ付同年四月十一日遠嶋

ガラス使用

被仰付中追放候処　御免

酒井雅楽頭様家来

一　志村与兵衛

一　町人暮代　幸田七郎

右之者共儀大坂長堀茂左衛門町之入泉屋

吉次郎親類家督出入之儀ニ付宝永七寅年

十二月大坂町奉行所ゟ伺候上度々御役所

おゐて追放以後之上正徳六申年六月ニ京都所

右依多度依而伺候上度々列席ニて中追放候処

御免日之御赦ニ付

松平右京亮様

西御丸

元表火之番

大塚吉太郎

一

右之者儀宝永三戌年中妾之妹恵林尼

死後ゟ公今之節安房守ニ而薬之式取扱候処不届

ガラス使用

法之儀有之相手右之者死候段掛りニ付吟味之上

同年五月中中追放ニ　仰付候

深川奥川町之又兵衛店

平之蔵

一　池田筑後守掛

右之者儀借貸人金貸人和泉世話致来壱文和泉屋

貸付金之儀ニ付寛政二戌年二月中池田筑後守殿

掛りニ付吟味之上和泉屋ニ而差出候利金貸人附

取候ニ付同年五月十八日中追放ニ　仰付候

南本所当役上側画家

隠居清右衛門之又兵衛店

孫四郎

一　小田切土佐守掛り

右之者儀寛政二戌年二月十七日夜清之浦右ニ而

追懸一件初而野々河岸度掛りニ付吟味之上同年

十月廿三日中追放ニ　仰付候

ガラス使用

一　松平右京亮掛

高野山聖方部方
大徳院之末寺隠居
亮巌

右之者儀出家不似合所持不埒ニ付松平右京亮ゟ掛り之吟味之上寛政元酉年五月廿七日中追放被
仰付候

一　池田筑後守掛

吉田丹後守内
元家来
市右衛門

右之者儀博奕筋之儀ニ付池田筑後守殿掛り之吟味之上寛政二戌年九月十日中追放被
仰付候

一　青山下野守掛

駒込吉祥寺元会下
黙拈

右之者儀吉祥寺先之住留衆山代寮ニ己蔵未熟ニ而毛不差配一山之破損招殊寮家致也讀候儀及夜之儀天明二寅年四月廿一日夜合山寮ニ而同年ト致之処黙拈儀山寮ニ罷出遂懐之寮

ガラス使用

御手之内ニ而山形日川遠藤佐光阿部備中守殿
掛りニ而吟味之上同年三月廿七日牧野豊前守殿
於内寄合右始末不届ニ付[illegible]中追放ニ付
御月番阿部備中守殿江申上済

綾ヶ橋谷戸
備前屋之家来
源吉郎

池田筑後守掛

一
右之者儀寛政二戌年二月廿九日芝口町家持
越後屋[illegible]一件掛り合有之池田筑後守殿掛りニ而
吟味之上同年九月十八日中追放ニ付
御月番

内方浅草[illegible]
小塚原[illegible]谷田村
[illegible]
奥平

一
右之者儀同村吉野屋源内方之人ニ者奥平ニ而
遺恨有之不取居候中之[illegible]始末根本

肥前守殿掛り之吟味之上[illegible]中之内
奥州寺中ニ而勤番所ニ而寛政三卯年中戸沢村[illegible]
罷出候上二勤番所右衣類并衣類之金子盗取候
及自殺候処ニ寛政五[illegible]當丑正月中遠嶋
之　伺候事

一
脇坂淡路守掛
御室御所元院家
高野山[illegible]院
慈光

右之者儀江州石[illegible]村[illegible]住職中願之上
対し我家中募之一件ニ付紀伊守殿掛り吟味
之上寛政二戌年十二月十一日中追放　伺候事
寺社奉行掛
[illegible]別当
金剛院隠居
觀空

一
右之者儀[illegible]出入一件安永八亥年中[illegible]
備中守殿掛り之吟味之上同年十二月中中追放　伺候事

ガラス使用

御先手
倉橋三左衛門元組与力
勝田長右衛門事
八官町稲荷新蔵
宮沢門之丞

池田筑後守掛

一
右之者儀寛政元酉年七月中ゟ病身ニ付
御奉公難相勤候ニ付同年十二月中ゟ眼病ニ而
跡ゟ抱入水戸殿家中鈴木与右衛門倅富右衛門儀
無續之者ニ付中之ゟ抱入候
仰有[illegible]戌年十二月

能川金子ニ主服儀池田筑後守殿ゟ御敷ニ
吹集之金文續蒔ニ者之文從共之中ゟ之金子
取壹貫目程之取集ゟ段取候ニ付寛政二戌年
八月中旅浮世之面喧嘩致候　仰有之

元伊奈右近将監組
新井藤之情

池田筑後守掛

一
右之者儀寛政三亥年六月中乱気ニ而抜合居

同所支度新米伊彦右衛門義同役田口源左衛門与
手疵為負候一件ニ付池田筑後守殿掛りニ而吟味之上
主人伊奈半左衛門江預ケ置候処役所ゟも出奔いたし
其分召捕候者之者可申付ニ而同年九月廿八日
軽追放之　御免

京都福寿堂院内清兵衛
浄土宗法禅寺
静　人

右之者儀一ケ年七未年中并ニ而表差買メ候
同所右之町申年十二月ニ京都町奉行池田
筑後守殿掛りニ而吟味之上米買メ之儀者
急度若年之品博奕致し候者ニ付同年
六月中山城一國追放之　御免　右者大坂
常安橋ニ而其身借り米炭売買致し候ニ付同年
七月中大坂町奉行小田切土佐守殿掛りニ而

ガラス使用

此者之上ニ宗門之身分ニ而構差免し地元之人別
ニ家內役貴寛ニ候處同年十一月十七日
軽追放被　仰付

一　　　松平右京亮抱
　　　　　　　　　　小谷金龍安楽寺
　　　　　　　　　　　元住持
　　　　　　　　　　　　悠性

右之者儀寛政三亥年三月中檀家葬式
之儀ニ付不届之儀有之　松平右京亮ゟ押込候

此者之上同年五月中軽追放被　仰付

　　　　馬喰町三丁目
　　　　　元吉兵衛店
　　　　　　嘉次郎

一
右之者儀寛政三亥年中家業之儀ニ付不埒
之儀有之池田筑後守殿ゟ押込　此者之上同年
十月十八日江戸拂被　仰付候處當子年中
又一件有之　曲渕甲斐守殿ゟ押込置　此者之上所拂

ガラス使用

揚屋江入置候処天明辰年閏十二月十七日病死致

候ニ付

一　小笠原佐渡守掛り

蒲原安十郎知行
武州葛飾郡小村井村
名主孫左衛悴

仁右衛

右之者儀天明七未年十二月中[illegible]同郡葛西川村
百姓藤左衛下男九口論し候右孫左衛与同く
同様ニ及刀抜之件柳生主膳正殿掛りニ而吟味
有之寛政元酉年四月十七日初鹿野河内守殿掛り
ニ而[illegible]山村信濃守殿以後右揚屋入置候処病死致
候ニ付

一　松平周防守掛

深川黒江町家主清兵衛店
松林院之内[illegible]

亞哲

右之者儀寛政二戌年八月中三[illegible]大樹ヲ守

給分之儀ニ付不届有之、板倉周防守殿掛り
ニ而吟味之上、寛政三亥年六月中追放被仰付
候者

飛騨国元〆総代
大宮象根五郎兵衛代
佐原忠兵衛

一
右之者儀大宮象根五郎兵衛代去ル寛政五丑年ゟ江
頭人引負金有之、久世丹後守殿掛りニ而吟味
之上引負金之儀ニ付不届之儀有之ニ付
寛政元酉年十二月中追放被仰付
候者

大坂長堀茂左衛門
家守吉次郎元代
保之情兄

一
右之者儀三人吉次郎親吉兵衛家質出入ニ付
明和七寅年十二月中大坂町奉行佐野備後守
殿ゟ役所ニ而吟味之上天明六午年六月三日小田切

右之者作州御預ケ之者引渡ニ付差遣被成候

作州へ者前年中渡候

一　（當御預り）

右之者寛政二戌年二月十日夜右清左衛門と

喧嘩いたし即死致人有之其本長兵衛儀

赦之上至而吟味之場所三ヶ月過料所払

（右當役上納金被　法令右ニ元被下）

長兵衛

所々船繋河内ゟ度掛り合候儀ニ付上日年十月廿三

日一ヶ国追放被仰付　作州へ

一

一　（池田隠岐守様）

（当引免波山林　六條右衛門社家）

長尾伊織

同人倅　同　縫士之助

右伊織儀本村ゟ右者方之年　一同橋清兵衛と

右縫殿助随身者当兆駈波山持林六常右衛門へ

社家ニ致右社乃未之古封印紙企候一件寛政
元酉年八月松平紀伊守殿掛りニ而吟味之上戌年
二月七日江戸払ニ成　御免候得共寺社役木村
今治郎ト申　一同瑞浄殿之右節再受
儀又ハ神門居ニ江戸払ニ成　御免甚蔵店
八王子横山町ニ罷在候平五郎事寛政元
酉年九月中於播磨市三入今度取候池田
筑後守殿掛りニ而吟味之上同年十二月廿七日申渡
壱岐国遠島被仰付　御免

山村信濃守殿
元門公
城井平助

当分右住寺預り

一
本所吉田町平八申年八月廿九日小笠原三河
御普請方十太郎ト酒狂之上疵負セ候一件　初鹿野
河内守殿掛りニ而吟味之上寛政元酉年五月中

国立国会図書館　タイトル『赦帳写』　請求記号 813-2　ガラス使用

江戸構之　御免

一　嶌右衛門預り　　原家手右衛門附
矢八郎元手代
角右衛門

右之者儀矢八郎孫娘ニて百姓地面之儀ニ付
不届之取計有之天明八申年七月中ゟ柳生主膳正殿
掛りニ而吟味之上同年九月二日江戸構被
仰付候

一　　　　　　　　　　松平陸奥守殿え御預
少人組
高橋縫蔵

一　同
梁川門三郎

一　嶌右衛門預り　同
白井与一左衛門

一　同
早坂喜右衛門

右之者共儀寛政二戌年二月松平陸奥守殿
嫡子政千代殿供ニ而罷出候処柳生信濃守殿

申付及狼藉候付彼方掛合一件初発野辺内々致
掛りニ而吟味之上右始末不届ニ付同年九月廿六日
江戸払被　仰付候

一　（松平右京亮抱）
（元陰陽師職組頭廃役）
渡辺帯刀
右之者儀寛政三亥年永浪人之者与一同
土御門家雑掌之上陰陽大属并関東
陰陽師触頭支配市正与相成候処松平紀伊守領分
吟味中於表役ニ而松平右京亮殿掛ニ而吟味之上
雑掌触頭役ニ対し不取締之儀と及出入之段
不届ニ付寛政四子年十二月廿七日江戸払被
仰付候

一　当時[illegible]
（本堂[illegible]町　[illegible]店ニ元[illegible]）
[illegible]右近[illegible]

ガラス使用

右之者儀安永九子年中有馬中務大輔殿
大坂蔵屋敷ニ而相勤候節諸借貸人合銀取
同人方ニ預ケ置候伊右衛門与申者先勘、差支
候ニ付居候借金同封ニ而右金子一件御関東出訴
掛リ之吟味之上同年六月六日江戸払被
仰付候処天明四辰年中溺死候

一岩波順兵衛儀[illegible]一件掛り
ニ付[illegible]引渡候
池田筑後守

西御丸
元表坊主
岩波順兵衛

右之者儀天明八申年中出火之節所之人与申者与
中者ニ預ケ置候質物与[illegible]加印遣シ一件池田
筑後守殿掛り之吟味之上盗物之由も不存[illegible]加印
遣し候段不届ニ付寛政二戌年十一月二日[illegible]
江戸払被
仰付候

ガラス使用

一　池田筑後守掛　八丁堀　大井仲之助娘　なか

右之者儀先年追放所　仰付浪人者と
密通致一件ニ付山村信濃守殿掛りニ而吟味之上
天明七未年十月二日江戸払所　仰付

一　池田筑後守掛　本所[illegible]町　御留守居[illegible]　吉右衛門

右之者儀天明八申年十月中芝浜松町壱丁目
家守武兵衛与申者与酒狂之上及口論之一件
山村信濃守殿掛りニ而吟味之上同年十一月七日
江戸払所　仰付

一　半井大和守殿元家来　俵　鉄治

一　曲渕甲斐守掛り　古郡源右衛門

右之者共寛延三午年九月中不届之儀有之
徒黨致候一件御糺節河内守殿掛り吟味之上
翌未年二月廿七日江戸拂被　仰付

一 神田佐久間町壱丁目
喜兵衛店ニ罷在候
喜助

一 馬喰町弐丁目
清兵衛店ニ罷在候
市郎兵衛

神田旅籠町[illegible]

一 同町新右衛門店ニ罷在候
嘉左衛門

一 同町弥三郎店ニ罷在候
藤八

一 同町清兵衛店ニ罷在候
治左衛門

一 同町三丁目
太郎兵衛店ニ罷在候
源右衛門

一 馬喰町壱丁目
[illegible]罷在候
七郎兵衛

ガラス使用

一　深川猟師町壱丁目
　　兵之助店ニ元罷在
　　　　新助

一　橋本町四丁目
　　元無宿
　　　　安助

一　小伝馬町三丁目
　　元無宿
　　　　七兵衛

一　深川佐賀町三丁目代地
　　元無宿
　　　　源兵衛

右之者共儀江戸大宮[illegible]ニ係り候不埒ニ付遠島
[illegible]一件御目付[illegible]掛り候[illegible]上[illegible]
三宅島[illegible]年十月十一日江戸掛ニ　仰付

　　元御代官
　　青木楠五郎手代
　　　　富永雄蔵

一
右之者儀手代[illegible]楠五郎引負金
之始末不届[illegible]久世丹後守殿
掛り之吟味之上[illegible]八[illegible]年六月[illegible]日江戸掛

ガラス使用

仰付

設楽三郎兵衛知行
武州埼玉郡江相村
元百姓
与右衛門

一 右之者儀寛延元辰年中博奕等之儀ニ付
寺社奉行[illegible]守殿掛りニ而吟味之上同年五月廿七日
江戸拂被 仰付

小田切土佐守組

糸井伊右衛門店ニ元弥五郎
又吉後見人同居
仙右衛門

一 右之者儀天明六午年深川ゟ中者と牧野
越中守屋敷中間共ニ三人無尽ニ而博奕いたし候
取退無尽己後深川中ノ者と右家中ニ而二尺渡被
一件曲渕甲斐守殿掛りニ而吟味之上天明七未年
二月九日江戸拂被 仰付

鳥崎村百姓
忠兵衛倅　当亥三十三
徳之助

一　右之者儀、天明七未年九月中、信濃国高井郡
宮切村百姓市右衛門方江貰掛借金滞有之、
柘植長門守殿支配所頼書同門郡
之村百姓清右衛門同郡通村百姓市郎右衛門方江
議論之合、宗有之ニ付、右両人頼ニ而相手取候人
三之儀ニ付、頼ニ而候得共当地ニ而取扱候処、
不届ニ付、柘植長門守殿掛りニ而江戸掛被　仰付候

日野村百姓
弥兵衛倅　当亥二十七
清之助

一　右之者儀、花松同様、酒毎件年々貰受、
右之者及公事、山村信濃守殿掛りニ而吟味之上
天明八申年十二月十九日江戸掛被　仰付候

一　松平右京亮掛

東叡山領
武州龍泉寺村
三右衛門忰
半五郎

右之者儀同村百姓源七店ニ而酒給候上少々之事ニ而
伊勢屋与兵衛家来三丈懸候儀依怪我為致候ニ付名主書面を以
東叡山目代田村権左衛門右懸合を以申出及出入ニ付
一件寛政元酉年十月中松平右京亮殿掛りニ而
吟味之上同三亥年二月十二日江戸払　御同人

一　池田筑後守掛

当時三之丞方ニ而
縮ゑ
市之丞

右之者儀寛政元酉年十月中上総ニ而傳助
之者共相稼仕入之悪銭途中ニ而殺害致右之死骸
共ニ送り候所同人宅ニ而人々之者共ゟ物取者ニ而候
遣候之道中家来ニ長右衛門手代同事来り之と
申偽候付一件池田筑後守殿掛りニ而

吟味之上當酉四月十七日江戸払之　御免

大久保山城守領分
武州足立郡出本村
傳十郎

一　右之者儀造酒商売仕年々受株ニ而不法増造候儀根岸肥前守殿掛りニ而吟味之上天明八申年八月中江戸払之　御免

深川永代寺門前山本町
元助店
彦助

當分奉行掛り

一　右之者儀天明八申年六月隠売女一件柳生主膳正殿掛りニ而吟味之上同年九月二日江戸払之　御免

御代官
伊奈友之助元支配
上村年寄

一

ガラス使用

右之者儀上野国碓氷郡鷺宮村抱百姓代ニ
村役人与赤掛り之私欲押領致出入取計而
其外不届之儀有之久世丹後守殿掛りニ而
吟味之上寛政二戌年十二月廿七日江戸払
伺有之

一　　　池田筑後守掛
八丁堀大富町
久兵衛店ニ元彦七方
清蔵

右之者儀天明五巳年十月中ゟ隠売女一件
山村信濃守殿掛りニ而吟味之上同年十二月五日
江戸払
伺有之

一　　　池田筑後守掛
芝寿大今院掛り地面
ニ有之店居ニ元彦七方
清次郎

右之者隠売女一件牧野大隅守殿掛りニ而吟味
之上安永九子年七月廿日江戸払
伺有之

ガラス使用

南部大膳大夫
右馬之元家来
伝ヱ門

一　右之者儀寛政二戌年十月瀧山所左衛門並ニ
東濃州持在之ゟ我掛り之貸金出入初兼節
河内屋度掛り之借用中内済取扱方不届
之條右之同三亥年正月七日江戸払被
仰付候

三州宝飯郡内
西岸寺之役僧
順山

一　右之者儀天明三卯年夏日中不順ゟ中者
役預り宝山内真言宗院之而七右教理ゟ申者ゟ
申候道中人馬之先觸出候遣不外定キ
別当西之係簡借受不順ゟ貸出併祭京
伊賀家度掛り之我等上一天明八申年十二月

ガラス使用

十二月江戸拂ニ　仰付候

一　池田筑後守掛　　本銀町六丁目
　　　　　　　　　　源右衛門店ニ罷在候
　　　　　　　　　　　　　　吉次郎

右之者儀寛政三亥年正月廿二日本銀町六丁目
ニ而曲闘甲州屋又吉方之抱陸尺長兵衛外弐人与
酒狂之上及口論候一件池田筑後守殿掛ニ而
吟味之上同年正月廿四日江戸拂ニ
仰付置候處

西之急年以来徒代毎右無之右之改往居外之重く又
當亥三月江戸構ノ揮場所之立入候段不届ニ付
尚又同日江戸拂ニ　仰付候

一　本所呉服町組羽手付
　　　之者之
　　　　三郎右衛門

右之者儀去年六月其外須川内兵衛
金子引出右之始末百両程去ニ付及出入一件

国立国会図書館　タイトル『赦帳写』　請求記号 813-2　ガラス使用

根岸肥前守掛りニ而吟味之上寛政二戌年十二月
十八日江戸払被　仰付

松平豊前守殿領分
下総国香取郡南中村
元百姓
与清

一　右之者儀寛政三亥年出作之者年貢米
取用候地頭取扱候旨之一件曲淵甲斐守掛
掛りニ而吟味之上寛政三亥年二月廿六日江戸払
被　仰付

当分在所居

本郷新町
長八店ニ元家主
清九郎

一　右之者儀天明七未年十二月十七日小石川上飛町
右者鄕与中者之口論一件ニ付曲淵甲斐守殿
掛りニ而吟味之上寛政元酉年七月十七日江戸払

正　御赦免

一　（越前国元〆郡代 太田為右衛門手代）佐々木周蔵

右之者儀為右衛門引負金之一件ニ付久世丹後守殿
掛りニ而吟味之上右始末不届ニ付遠島被仰付
寛政元酉年十二月廿六日江戸ニ而掛紙
御赦免

一

一　（田沼能登守殿知行所 上総国長柄郡古所村 元住職）文清
（元弟子）淨海

右之者共儀不受不施宗門ニ而御法度之宗門ニ候処
拵方致し候始末曲渕甲斐守殿掛りニ而吟味
之上右宗門流し候法會致し候ニ付遠流人を

紛失いたし候ニ付宗旨之曼陀羅を
授ケ候茅敷村々之者共江為致拝受候ニ付
同所ニ而寛政四子年七月九日右之者共江戸
掛ニ而　御免

右桃木町五丁目之者共
又七郎

中橋上槙町ニ而之者共
与之清記

一

一

右之者共大坂長堀茂左衛門町之人家ニ
吉郎兵衛家屋敷出火之儀ニ付御手当ニ而寛政
十二月大坂町奉行所ゟ申来候依而御仕置ニ掛り
吟味之上天明六午年十二月二十四日佐渡遠島
佐渡国渡海度到着ニ付大坂ニ而御伺江戸掛

赦　御免之旨被申渡

池田筑後守様

右和泉町長坂屋
平三郎悴
平吉

一

右之者儀寛政四子年十二月中相手合人儀
新兵衛与及口論之一件池田筑後守殿掛りニ而吟味
之上同年十二月九日江戸払訖　伺之通

一　山田助左衛門掛り
清水御屋形中小人頭
小笠原[illegible]支配
河内舎人
元中小人
相川吉五郎
右之者儀致喧嘩之一件御奉行河内守殿掛り

吟味之上不埒之儀有之寛政二戌年正月十日
於評定所江戸払訖　伺之通

一　脇坂淡路守掛
摂津丹波之境
永沢寺元役僧
黙祥事
頤翁
右之者儀永沢寺役僧在勤中寺御支配末
寺院与及出入之一件右役美濃守殿掛りニ而

此者之上安永四未年九月廿七日江戸掛ニ
伺有之候処惣兵衛其後御赦免之節ニ而被出度候
兵衛儀揚屋ニ而病死候ニ付至今役所ニ而松平紀伊守殿
掛りニ而此者之上江戸十日以伺有之　伺有之

當戌年赦り

一

紀州日高郡三尾浦村
元大庄屋役
木下十内　死

右之者儀紀州日高郡須賀若養浦雑賀

右之儀ニ付寛政二戌年十二月中御赦免御内意度
掛りニ而此者之中十内儀病死ニ付同年六月
此方右之一件裁許之上紀州奉行所ゟ下御掛ニ
伺有之候旨御申渡之

此木下十内儀旧庄屋裁許ニ者赦免ニ成候得共一統右方ニ而様子
ニ存ニ付御ニ上ニ而御掛り願候処ニ而御本庄年以後之事
評定所ニ而赦免之沙汰ニ候十内儀も同様ニ付
之并四句会ニ上御ニ而御掛り之赦免ニ而方ニ而赦ニ付
右寛政十年

並寄合浅野掛り西殿ニ元奉

一

此等紀後十年

赦免

右之者儀寛政三亥年四月中為御赦

国立国会図書館　タイトル『赦帳写』 請求記号 813-2　ガラス使用

之儀ニ付松平遠江守殿池田筑後守殿掛りニ而
吟味之上同年六月五日所払被　仰付

萱居安十郎御代官所
武州橘樹郡樽村
元名主
三郎兵衛

一

一

同支配
同州同郡大曽根村
元百姓
勘七

右之者去ル寛政四子年二月中[illegible]川
通り堤自普請之儀ニ付同郡南小[illegible]村
之者左与喧嘩一件根岸肥前守殿掛りニ而
吟味之上同年六月廿五日両人共所払被　仰付

武州葛飾郡小岩田村
元百姓
市郎兵衛

一

右之者儀安永七戌年中納年貢米村方

出張し候ニ付及立入山村信濃守受掛りニ而
吟味之上遠島申付候処御赦　仰付有之

小石川原町八百屋之元家主
治之猪

一　右之者儀藤兵衛種々之儀難取計平孝賣掛
之儀ニ付堀田相模守受掛りニ而吟味之上天明六
午年六月十三日御赦　仰付有之

（松平周防守掛）

武州荏原郡八平村
元百姓
元吉兵

一　右之者儀安永二巳年中村方致立入候ニ付
及立入曲淵甲斐守受掛りニ而吟味之上遠島
申付候処御赦　仰付有之

芝西応寺町喜三郎店之元家主
古着買人宿
源次郎紀

一

（池田筑後守掛）

一　右之者儀、延宝元丑年五月中吉三人ニ而
出入ニ付、牧野大隅守殿掛りニ而吟味之上
右出入ニ付、深川西町之門番十二月中人宿所業
永ニ而敷不埒ニ付　御赦ニ付寛文亥年中
致牢死候

大坂ヒツ様子右衛門ニ元禄年
一　七右衛門

門傳首河西町ニ元禄年
一　作太夫
右之者儀、大坂長堀高右衛門与申人五郎兵衛
致出入ニ付、深川西町之宿寛文十二年十二月中
大坂町奉行依田備後守殿掛りニ而吟味之上
延宝六午年十一月廿六日右依田備後守殿牧野
備後守殿列席ニ而遠島被仰付　但八丈嶋へ流罪

ガラス使用

一　小田切土佐守懸り

[illegible]　安[illegible]

右之者儀天明三卯年十月中不[illegible]之儀[illegible]
妻よの[illegible]日暮林町ニ而中者寄道[illegible]
[illegible]不届之世話致し一件[illegible]河内[illegible]
掛り合[illegible]上同年九月十二日[illegible]
[illegible]

一　池田筑後守懸り

[illegible]百姓
[illegible]

右之者儀寛政[illegible]年十月中上州[illegible]
[illegible]申者[illegible]用ニ付[illegible]
[illegible]及疵[illegible]公[illegible]死[illegible]
ニる[illegible]道中[illegible]

不埒之義有之池田筑後守殿掛りニ而吟味之上

當丑正月廿七日御赦ニ付　御免

一　池田筑後守掛

神保佐渡守殿知行所
武州多摩郡廣畠郷中山村
二人組合

伴七

右之者儀同村百姓吉左衛門与申者八王子千人

同心若代引請小宮山丹後之下名前ニ而右和郎

取立之人為名右と申名前ニ而池田筑後守殿

掛りニ而吟味之上寛政三亥年七月廿七日御赦ニ付

御免

一　池田筑後守掛

平近玉川村
二之兼

三九郎

右之者儀搗米商売仕来り候處寛政に

子年三月中御払米買請仲ケ間共ゟ売買致

ガラス使用

依之指扣罷在候処右之者共と共ニ其夜及出火池田

筑後守殿掛りニ而吟味之上罷在候処去ル卯年

正月廿二日指扣商売之儀差止被仰付候

元数寄屋町二丁目東宮付
三右衛門店
弥兵衛十七兵治

小田切土佐守掛り

一

右之者儀紀伊国屋源兵衛方養育難所

寄之者依之寛政二戌年十二月中小伝馬町牢屋敷

掛りニ而吟味之上同年六月中於評定所一座御評議

江　被仰付候

下ケ札

此者去ル未年赦後御免ニ相成候赦帳ニ不載候ニ付
一新御様御付伺之上此御赦御附候ニ付評定所ゟ
御呈合有之候上此一名赦ニ相成候者此方赦帳ニ不載
候事

田尾新宅与左衛門知行所
上総国長柄郡茂田村
三左衛門方同居
一吉之助

一

右之者儀居屋敷罷越宿門虚実宿店之

持方頂之上罷出曲淵甲斐守殿掛りニ而吟味

ニ付遠島流ニ候得共後悔致し候ニ付赦人と
成候儀ニ御座候ニ付宗法ニ曼陀羅を掛ケ
奉敬致し村々ニ而者尤以相頼致し候
間何卒今般寛政四子年七月九日奉願候　御免

小笠原左京大夫領分
豊前国企救郡[illegible]村
[illegible]寺

法寿寺

一

右之者儀安永六酉年中御年貢不納ニ付
村方之者とも迷惑致し田地を以年貢納方村方ゟ
弁償致し候其後天明元丑年中帰村致居候
其後御代官栗村彦三郎方へ欠落致し候
処御仕置ニ遠島ニ相成三卯年十二月中奉願候　御免

[illegible]
[illegible]寺

法蘊

一

皆成院[illegible]持

ガラス使用

右之者良忠門法度違背忠恩宗門没
出奔り之此者柏之有之所依之任當山為忠吉
然此儀上右於末寺而已ニ而安永七戌年十一月
其外ハ願経寺之末新寺號禁制之處牧野大隅守殿
大久保出羽守殿御列座ニ而退院被　仰付

一　松平周防守様

當山之末地
小石川傳通院之住持忠蓮弟子
培山

右之者依浄通忠蓮傳通院末寺之周国山
大巌寺出入之伴ニ而培山儀ハ罷越候右之土井
大炊頭殿御掛リニ而退院一相又子年三月中一流構
被　仰付

一　池田筑後守様

右之者依明和七寅年閏六月十二日病死

御寺社役人
酒井大和守殿支配
小村久三郎

隠売所致候所江連参者及口論候ニ付
吟味之上同年八月十八日牧野大隅守殿掛りニ而
江戸構御免ニ而放遣之処天明四辰年七月中溜病死仕

一　名古屋検校

一　松浦検校

池田筑後守様

一　松島検校

一　丹羽勾當

右之者共安永七戌年中ニ而利金之儀ニ付
牧野大隅守殿掛りニ而吟味之上同年十二月廿四
日溜ニ而預ヶ之處翌亥年二月中評定所
闕宜局死之上三ケ津構申付候

一　大坂村検校

一　池田筑後守様　江ノ濱勾當

右之者共寛政四子年十一月中貸金之儀又

之候ニ付池田筑後守掛りニ而吟味之上同年九月
二十[illegible]同月中[illegible]村[illegible]候を
江戸十里四方武蔵山城大和和泉摂津肥前
国構中山道并[illegible]日光道中江戸中[illegible]之
村構中追放

右之者共今般
惇信院様三十三回御忌御法事為御追善
御赦
御免之儀被成下候様奉願候以上

寛政五丑年十二月

増上寺大僧正印判

国立国会図書館　タイトル『赦帳写』 請求記号 813-2　ガラス使用

御赦願帳

二冊之内

諸預

一　池田筑後様　御家来右近

一　御家来半兵衛

右之両人不届之儀有之去子年九月中

御咎之上南部内蔵頭様松平甲斐守様江御預ケ

被　仰付候

右御預ケ之儀此度御免許預候

松竹居
荻原[illegible]守殿元家来

堀内与三右衛門

一　右之者儀支配所村方百姓共名主を相手取
差出候訴状文面之内検見入用ゟ相掛合銭
遣筋之儀追而沙汰可有之旨利解申聞候
処右押而願候を為除候段不届之儀ニ有之
不届ニ付寛政四子年六月九日入牢被申付候処

掛り之者沙汰料地方年貢公務御赦仰付候

一　池田筑後守領

青山但馬守殿元家来

小林忠四郎

右之者儀天明七未年七月十二日ゟ令蔵同公
候村平作ゟ申者浅草蔵前利倉屋七兵衛方ニ
奉公仕会子借請之候ニ付雑用之儀申掛七三米

及違乱ニ付紀州右平作を為引払ニ一件
山村信濃守殿掛りニ而吟味之上忠右衛門外之人ニ茂
不申聞平作引払ニ候段不届ニ付信濃守殿依
差図満年奉公構永之暇申付候

一　小田切土佐守掛り
中根内膳殿家来
千葉長兵衛忰
千葉慶次

右之者儀寛政二戌年中迄徒頭間宮友之丞
方ニ相勤同年八月中永之暇申請其後無宿ニ
罷在候処又候当年中先主家来松平要助与申
者ニ相頼脇指一腰売払之段口入候一件ニ付初鹿野
河内守殿掛りニ而吟味之上右始末不届ニ付同年
十月十六日武家奉公構被　仰付候

ガラス使用

元御代官
宮村孫左衛門手代
萩原茂兵衛

一　右之者儀天明八申年六月中孫左衛門御預金一件
根岸肥前守殿御掛りニ而御吟味之上右始末不埒ニ付
在役中不届ニ付手代等江操候　御付候
右場門与三右衛門并三人之者右等江操之儀
此度御免被成下候様奉願候

浄宗円論寺門末
右庵住
尼
知了

一　池田筑後守殿
右之者儀芝車町元家持嘉七妻こさ与申
者ニ而尼ニ成候以前夫嘉七儀抱地面之儀ニ付心得
違之儀有之安永七戌年二月中牧野
大隅守殿御掛りニ而御吟味之上抱地面五箇年之間

此右上方加七并追放之外　仰付候ニ付之旨候者毎

之人有之親類遠慮ニ付被判形致候ニ付後

浚明院様三回御忌御法事ニ付兄又加七

御赦之儀奉願候処寛政三亥年正月十右

御法事為御赦加七追放御赦免被仰付候旨

池田筑後守殿ニ而被仰渡候然処此上ニ相成候地面

何卒今般御下置候様奉願候

元締宿

一　美濃屋　又右衛門

一　永田屋　友七

一　正木屋　忠七

一　増屋　徳次郎

一　常陸屋　吉五郎

一　下野屋　重兵衛

一　伊勢屋　三之助

一　菱屋　勘右衛門

一　大口屋　喜兵衛

一　長嶋屋　久右衛門

一　小田屋　源兵衛

一　小濱屋　末次郎

一　大和屋　次郎吉

一　下野屋　政右衛門

一　伊勢屋　徳兵衛

一　伊勢屋　安兵衛

一　伊勢屋　喜三郎

一　木村屋　善右衛門

ガラス使用

一　伊勢屋　八右衛門
一　大野屋　久四郎
一　坂倉屋　吉右衛門
一　紀伊国屋　権兵衛
一　和泉屋　喜兵衛
一　伊豆屋　幸右衛門
一　福田屋　松次郎
一　尾張屋　勘右衛門
一　利倉屋　清次郎
一　小玉屋　平蔵
一　東村屋　重次郎
一　水戸屋　清兵衛
一　笠倉屋　久三郎
一　中村屋　吉右衛門

ガラス使用

一 伊勢屋 清兵衛

一 井筒屋 善右衛門

一 出羽屋 喜八

一 伊勢屋 幸七

一 伊勢屋 利兵衛

一 近江屋 平七

一 河内屋 忠右衛門

右之者去寛政二戌年中納諸入用之儀
月々世話役立合掛り候而吟味之上納入用
多分相掛り候段不埒ニ付納方様式相乱放
之　御目付ニ而此度納方御用向之　御目付之下
重ニ相成候事顕候

甲州巨摩郡
御嶽山蔵王権現
元社人年寄
桐原豊後

一

一　桐原監物

一　桐原内匠

一　桐原主税

一　桐原越後

一　桐原兆弾

一　桐原丹後

一　中迎右作

板倉周防守掛

右之者共寛政二戌年中小社家之者共と被相白ニ及出入板倉周防守殿掛ニ而吟味之上右八人之者共年番神主ニ而相當り候ニ付不正之取斗有之ニ付寛政三亥年七月九日年番役被召放候付此度年番役被　仰付被下置候様奉願候

一　池田筑後守掛

（小普請組　市橋大膳殿元支配　馬場清次郎養子死　實子ニ相願）

一　馬場兼之丞

ガラス使用

右義之丞父次兵衛儀従弟遠西原十之右衛門
水死候段訴不申顕一件之者中追放被
仰付候処寛政三亥年正月中島居所迄罷候
候処山田肥後守殿宅ニおゐて御呵被
仰付候ニ付右義之丞ニ合訴出之者無之候得
願候

小田切右近組

一　朝比奈孫之丞

元追放者
朝比奈孫次郎死
實之子也願

右孫之丞父孫次郎儀寛政二戌年十二月廿一日
及乱心同人宅ニ参会罷在候水野若之郎を被
殺害候ニ付其身縁当度ニ出頭ニ付
仰付翌亥年二月二日於同人宅松浦越前守

ガラス使用

屋中波切崩候ニ付　仰付ニ付此度改候ニ付相願

御免被下置ニ付根本寺領候

一　駒込高林寺末　大林寺

寺社奉行掛

一　青山妙法寺末　顕本寺

浅草本願寺末

一　専西寺

右三ヶ寺共年来駒込ニ罷在候処享保之戌年

御鷹部屋御用地ニ相成候ニ付翌亥年本郷追分

ニ而代地被下置御年貢地ニ候　御用ニ付此度

河之義含貫寺ニ而年々御年貢上納仕候段

難儀ニ付右代被為　御追右代地除地ニ被

仰付被下置ニ付根本寺領候

ガラス使用

一　池田筑後守掛

芝西應寺町
善兵衛店ニ元居候
六番組人宿源四郎元
悴
蔵次郎

右蔵次郎父源四郎儀天明元丑年中無宿人
頭り出入有之牧野大隅守殿掛り吟味之上
人宿家業之以追放所払候　源四郎儀以後被
病死ニ付此度右蔵次郎ニ人宿家業被御免

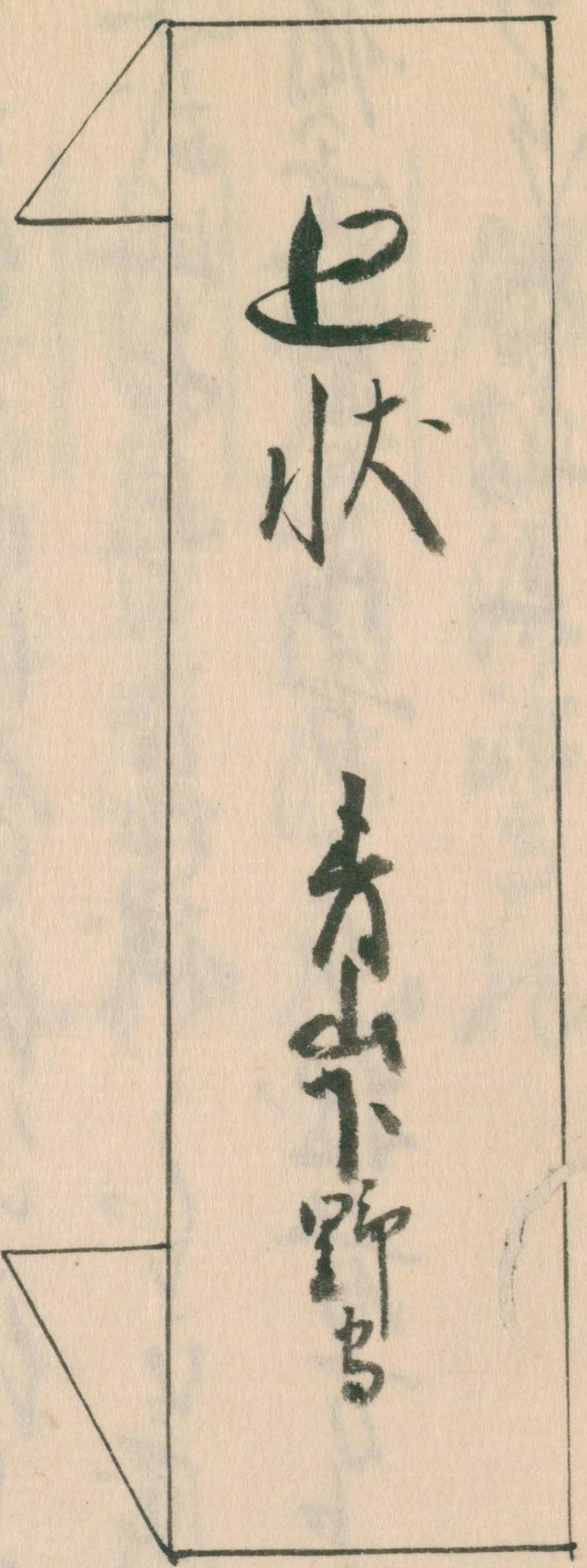
被成下ニ付本頭所

ガラス使用

右之者共今般
惇信院様三拾五回御忌御法事為御追善
赦之通被　御月番松平紀伊守殿被仰渡之

寛政七卯年十二月

増上寺大僧正印判



上状　青山下野守

於増上寺
惇信院様三拾三回御忌就御法事中

ガラス使用

増上寺方丈願ニ付赦帳弐冊備中守殿江
被進達候処前々之通掛り合被附札
可差出旨被仰聞候得共猶又御赦帳
写弐冊相返し候処掛りニ而致附札
御願達置候処方より拙者方江御返却
可被成候以上

二月廿四日

青山下野守

松平右京亮札
脇坂淡路守札
板倉周防守札
松平甲斐守札
石野肥前守札
曽我伊賀守札
岩本内膳正札

酒井周防守札
松浦越前守札
桑原伊豫守札
安藤大和守札
三枝豊前守札
池田筑後守札
小田切土佐守札
柳生主膳正札
久世丹後守札
根岸肥前守札
曲淵甲斐守札
佐橋長門守札
八木但馬守札
仙石治左衛門札

ガラス使用

長谷川平蔵殿
太田運八郎殿

追而山口丹波守殿依田伊勢守殿上書大林
与兵衛殿江勝後月来能遣之候旨又遠路
奉行所掛り分茂右之通遠国奉行所より
二紙中ニ書付ニ而相渡殿江被仰渡候

惇信院様五十回御忌
文化七年午五月　増上寺
御赦帳写

ガラス使用

當所切支丹書様　菅原遠写

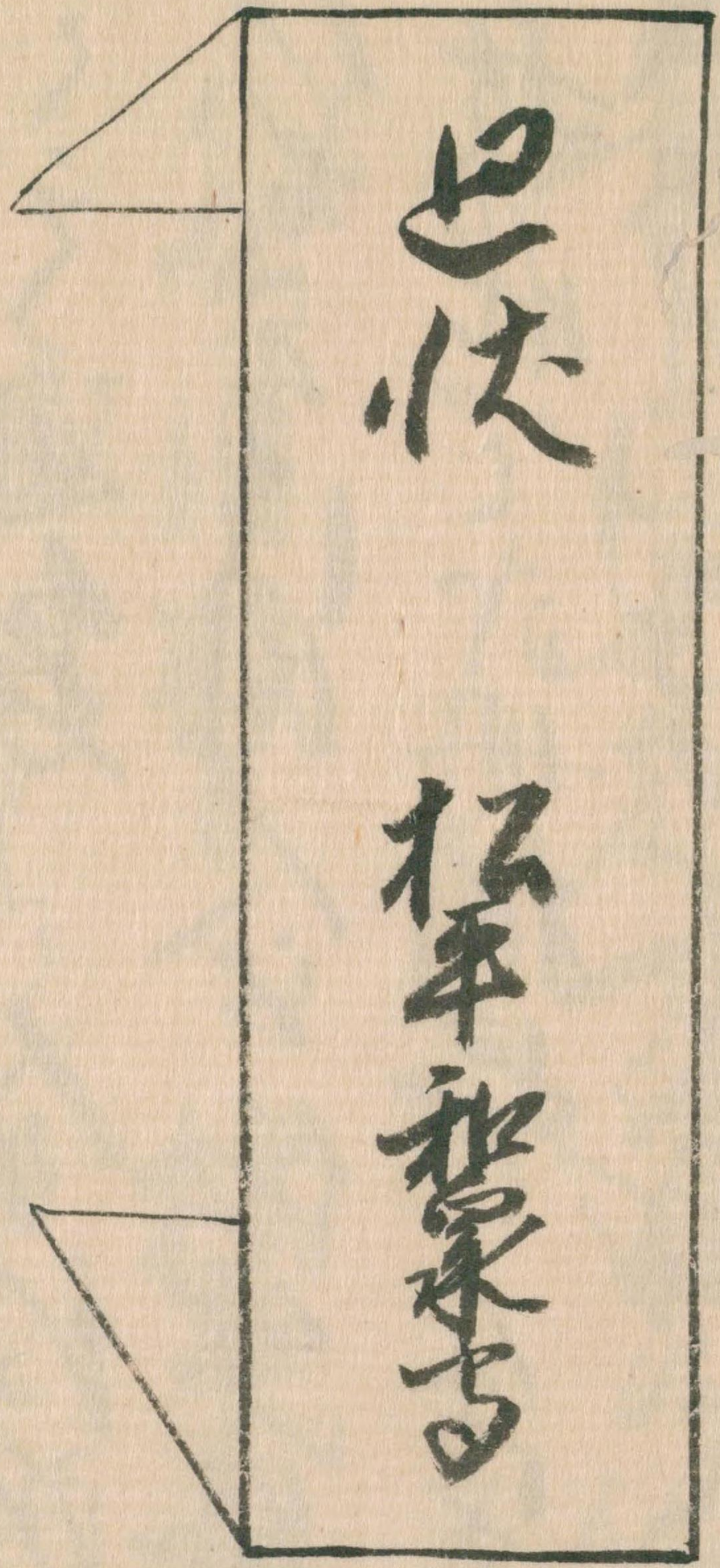
右本、相良家書谷之也、状并赦帳、弐冊
丙寅二月写留、則為指控遣ス

国立国会図書館　タイトル『赦帳写』　請求記号 813-2　ガラス使用

可被成御心得候

文化七午年

十月廿二日



巳状　松平和泉守

當六月於増上寺

惇信院様五十回御忌御法事

増上寺大僧正より差出候御赦
帳弐冊御老中方ゟ被遂御吟味
并之通赦免被仰付下
候様仕度旨同人共江申渡候ニ付
御赦帳弐冊相返し候ニ付御蔵ゟ合
江戸蔵前附札御返し達候ニ付御奉

御奉行ゟ返却可致候以上

文化七年

九月朔日　松平和泉守

脇坂淡路守殿
松平右京亮殿

有馬左衛門佐殿

泊木根大門記殿

松浦越前守殿

佐野豊前守殿

石河若狭守殿

井上筑後守殿

保原河内守殿

中川飛騨守殿

来原壱岐守殿

森川越前守殿

曽我丹波守殿

榊原飛騨守殿

午
六月廿二日死去

柳生主膳正殿
小笠原信濃守殿
松平主殿頭殿
水野美濃守殿
小林豊後守殿
小笠原大和守殿
脇坂久右衛門殿
柳沢八郎右衛門殿
荒井石見守殿
大林源之進殿
右之由御赦被仰出候段紀伊守殿差遣之

罷越及是非候處及老衰勤方不罷
越候ハヽ是重國も年行兼尋ニ合
被之之毎遍重串年行兼不申毎逢遂
有之書付差出候様被仰付候以上

御赦帳寫

文化七午年七月

御赦預帳

二冊之内

諸類

元寄合
藤枝外記

小田切土佐守懸

一 右之者儀天明五巳年八月致変死ニ付
詮議評定所久松筑前守ニ而被曲渕甲斐守殿
仲蔵儀修理ニ而被渡之合ニ而家断絶絶家常儀
初年月御咎之不詳候御沙汰ニ而詮
御渡書之内之山田肥後守殿御書付ニ而被

ガラス使用

被成下何様ニ成候ニ付　右家督相続無滞
奉願候

一右之者儀寛政四子年三月不届有之候
元御勘定　伊東右近
有之ニ付為役御免閉門被仰付置候處嘆之上

頃ニ付　御赦同年九月閉門御免被成
候ニ付　御赦ニ而遠慮去ル寅年八月致病死
候得共御咎中之儀ニ付死骸取捨ニ候得共
未達ニ候不届無之得共未達迄
仕候　御免被為成下置候様奉願候

一　勘定奉行掛
元　三浦肥後守

ガラス使用

右之者儀寛延巳未年十月極村千右
衛門変死之砌右親類書ゟ除候ニ付有之
急度叱 右之者ハ多美濃守殿ゟ出頭中被
病死ニ付世悴也何某ゟ家督被之少根筆頭候

一 （元小普請組頭之支配死 實子）関寛之

右之者儀父三左衛門支配新見又十郎ニ
預ケ置候子一件ニ付寶暦十一巳年二月親
評定所三左衛門重追放被 仰付之後天明
辰年七月三左衛門御赦 御赦免被
仰付候処父寛政六寅年八月致病死ニ付
此度實子ニ付 右者也何某ゟ家督被之少根筆頭候

ガラス使用

元文五申暮赦事

喜円

一 右之者儀御用承勤候處不調法ニ付
為仕置之寺御預ヶ渡被成置候處文字多分門贖
取締方不埒ニ付寛政十二申年七月家職
差放被致候願之通被成候上永蟄居罷在候
御用ニ付而候永蟄居　御免被成下候様奉願候

竹腰山城守殿元家来

鈴木左門

「井上美濃守掛り」

一 右之者儀享和三亥年六月井上美濃守殿
掛りニ而心得方之儀出入等有之重々不届之訳
有之依之先年来勤方不似合ニ付隠居之上
永押込被　仰付候此度右御法事ニ付
御免之儀被下置候様奉願候

ガラス使用

深川築出新地
元名主役
久右衛門

一　右之者儀同所隠売女一件ニ付文化元子年十二月根岸肥前守殿掛りニ而叱之上名主役被　召放候此度　御赦免被成下候様奉願候

「青山下野守殿御取扱

禅宗
浅草新寺町
東岳寺
隠居
林芳

一　右之者儀寛政四子年三月先代旦那隠居林芳儀三代旦那義明与申者当住之為当不和ニ有之或日口論之上義明を致打擲候処致即死隠居林芳儀同年六月牧野備前守殿

ガラス使用

掛り之者死罪候　御府内後藤須地面之内
門前地并建家共出火致焼失候　無資力之家
地不残焼失之上被下置候様奉願候

信州伊那郡上川路村
開善寺
元住持
唐山

一　右之者御預成預之処大和守殿入魂之節願内

諸寺院え相見え候処中出候ニ付右唐山儀
被召出候以後心懸宜相勤寛政六
寅年十二月青山下野守殿掛り之上
綸旨御取上退院　御府内払候
御赦免被成下候様奉願候

相州箱根山別当
金剛院元住持
隆海

一

「脇坂中務大輔呈」

右之者儀伊豆山般若院一件ニ付文化五
辰年十二月脇坂中務大輔殿掛ニ而御吟味之上
退院ニ付　御用此度　御赦免被
成下候様奉願候

一
元儀役
力石勝之進殿名代
福田七五郎

右之者儀不行届儀有之寛政元酉年
三月池田筑後守久保田佐渡守殿掛ニ而
吟味之上永代差控ニ付　御用此度
御赦免被成下候様奉願候

一
元小十人組
加藤宗之吉

右之者儀文化三寅年十月就出帆海岸
致横死候處小笠原近江守殿家督相續
候　御用以後家督相續被仰付候　右家督
相續之儀相續仕

右之者共今般
惇信院様五十回御忌御法事ニ付為御追善

願之通被　御赦免被下置候様奉願候以上

文化七午年七月

増上寺大僧正（下判）

ガラス使用